

アセットマネジメント部門

未来の下水道を支える職員の育成

～東京都下水道局における技術継承の取組～

東京都下水道局

応募事例の概要

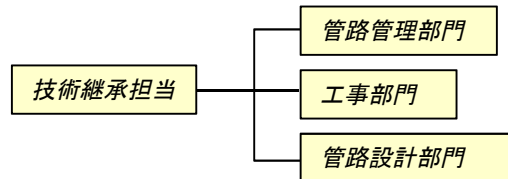
近年、ベテラン職員の大量退職に伴い、世代交代が急激に進み、新規採用1～3年目の若手職員が業務の中核を担っています。そこで、若手職員育成のため、下水道局電子図書館の整備や到達度確認シート導入のほか、若手職員に直接寄り添い業務の支援・相談を行うため、知識・経験があるベテランの再任用職員を担当として配置し、各事務所へ巡回して知識・技術・ノウハウの継承を行っています。

1 下水道局電子図書館の整備

- ・技術情報等の情報共有化
- ・下水道局技術質問・相談コーナーの設置



3 再任用職員の活用



主な技術継承の取組

- 事務所巡回による講義やグループワーク
- 電話・メールによる相談受付
- 事務所の個別案件(設計委託や工事監督など)をサポート

講義項目(事務所巡回)

- 水再生センターのしくみ
- 下水道管きょ設計・施工の留意点(シールド工法、仮設工法、地盤改良工法など)
- 現場実習(現場感覚を養い知識・ノウハウを学ぶ)
- 実務実習(実施設計等の実務を題材にしたOJT)

2 到達度確認シートの導入

業務手順を項目毎に作業内容、知識、参考とする資料等が一目で分かるようまとめ、下水道技術や知識が蓄積できる「しかけ」となっている。達成状況は、インストラクターや所属課長が確認する。

項目	作業内容	必要な技術・知識	目標	(1ヶ月未満)		参考とする資料等
				職員	インストラクター	
① 設計引継ぎ	設計者から設計意図を正確に把握し、設計内容を把握する。必要に応じて、現場実習を行う。	○設計者から設計意図を正確に把握し、設計内容を把握すること。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○設計内容を正確に把握し、設計内容を把握すること。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○経験した作業内容や学んだ技術等を記入	○インストラクターによる指導・評価	○設計書、工事指示、変更指示に該当する資料 ○設計図書 ○設計仕様書 ○現場実習の活用申請 ○現場実習の工務簿 ○工事関係図等
② 工事内容の把握	設計図面に照らし、現場実習を行う。必要に応じて、現場実習を行う。	○設計図面に照らし、現場実習を行うこと。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○現場実習を行い、現場実習の成果を把握すること。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○経験した作業内容や学んだ技術等を記入	○インストラクターによる指導・評価	○設計書、工事指示、変更指示に該当する資料 ○設計図書 ○設計仕様書 ○現場実習の活用申請 ○現場実習の工務簿 ○工事関係図等
③ 現場実習	現場実習を行う。必要に応じて、現場実習を行う。	○現場実習を行うこと。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○現場実習を行い、現場実習の成果を把握すること。 ○必要に応じて、現場実習を行うこと。	○経験した作業内容や学んだ技術等を記入	○インストラクターによる指導・評価	○設計書、工事指示、変更指示に該当する資料 ○設計図書 ○設計仕様書 ○現場実習の活用申請 ○現場実習の工務簿 ○工事関係図等



(写真)グループワークに取り組む再任用職員と若手職員たち

■PRポイント

東京都下水道局は、技術継承を主要な事業の一つに位置付け「下水道技術を継承する環境整備」「組織体制の強化」などの方針に基づき局一丸となって取組を行っています。具体的には、「下水道局電子図書館の整備」、「到達度確認シート(職種別、年次別)の導入」、「再任用職員を技術継承担当として配置」などです。また、技術継承をより充実させるために、取組内容を電子図書館へ掲載するなど「見える化」し、効果・成果を検証して見直し・改善を図るとともに、異職種間で相互に参加できるように常に進化させ続けていきます。

■具体的効果について

昨年1月から局内のネットワークに「電子図書館」を整備したところ、昨年度の閲覧数は、月平均6万回アクセスがあり、情報共有のツールとして役立てています。また、昨年度、若手職員に対しアンケートを実施し取組の効果・成果を確認したところ、技術継承担当との良好なコミュニケーションが取れており、8割以上の職員から効果があったと回答しています。